

『息もできない』 作：ポチ子

同じ時間に起きて、

同じ電車に乗って、

同じ仕事の繰り返し。

毎日なんにも変わらずに生きているような気がしてた。

桜が咲いたと思ったら、もうセミが鳴いていた事とか、

この前すれ違った近所のおばあちゃんが死んだ事とか、

無かったことにして生きていた。

でも私は毎日歳をとるし、

出来ることが増えて、

やりたいことが減って、

きっと昨日の私は二度と戻ってこない。

それを考えながら生きるのって難しい。

何年後かに後悔すると分かっているけど、

今の私には何もできない。

それは何となく悪い事だという自覚はある。

だから、きちんと生きなければって、

息をすることを意識すると、

途端に苦しくなるの。

さっきまで何となくできていたことも、

簡単に出来なくなる。